

建交労北海道本部第27回定期大会 対話と学びあいを大切に

建交労北海道本部第27回定期大会は10月4日に札幌市「エルプラザ」を会場に、代議員29人（うち委任状10人）と道本部役員9人などの参加で開催されました。今年の大会は北海道での組織統合以降で初めて1日開催となりました。道本部の森国教委員長は「高市内閣は労働法制の改悪をふくめて労働者・国民の生活と権利への攻撃を強めている。これに対し、私たちは春闘、トンネルじん肺根絶訴訟などを前進させ組織拡大でも新しい仲間を迎えてきた。改憲に反対する新しい動きもつくられており、来年のいっせい地方選挙に勝利して高市政権に打撃を与えよう」とあいさつしました。提案された議案について7人の代議員が討論に参加し、それぞれの発言では対話と学びあいの重要性が強調されました（発言要旨は続報）。役員選挙では、森国教委員長（札幌合同支部）、竹田吉宏副委員長（北海道鉄道本部）、宮澤毅書記長（札幌合同支部）などが再選されました。

北海道鉄道本部が年末一時金要求を提出

北海道鉄道本部は10月5日に年末一時金の要求書をJR北海道に提出しました。要求は「支給率2.05か月分（前年と同率）」「全ての社員に一律5万円支給」「エルダー社員への乗率1/2を適用しないこと」などです。物価高騰に苦しむ社員と家族の暮らしを守り、暖房費の更なる値上がりが報道されているもとで譲れない要求として会社の誠意ある回答を求めています。

全国鉄道本部大会に参加して

9月12日に開催された全国鉄道本部29回定期大会に、北海道鉄道本部から竹田委員長と最上書記長が出席しました。今年の大会には、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の田中重光さん（元 全動労長崎地本）が来賓として参加して、田中さんが原爆投下された長崎市での被爆体験と平和への願いを特別報告し、参加者は「憲法9条の改憲を許さず、戦争反対」の思いを一層強めました。最上書記長が職場での取り組みやJR北海道の状況を報告して「北の鉄道を守るために、会社はもとより国交省との交渉で声をあげていく」と決意を述べました。竹田委員長は黄線区と並行在来線問題で国の責任を厳しく追及していく決意とともに、京極町議によるミャンマーからの農業実習生への虐待事件支援を訴え、参加者全員から温かいカンパが寄せられました。カンパは9月14日に札幌地域労組を訪問して手渡し書記長と懇談しました。建交労全国鉄道本部の仲間たちからの激励に、たたかいによって育てられた団結の力に感動され、カンパ袋に書かれた全国各地の支部名と氏名を見て感動しておられました。なお、大会前夜におこなわれる交流会に飛行機の遅延や欠航により不参加が続いていましたが、今年は無事に参加することができて、全国から集まった仲間と親睦を深め、行政や自治体との懇談の手法など経験交流ができました。

【北海道鉄道本部 竹田吉宏】

写真コンクールの最優秀賞に出口憲次さん

第28回全国大会（8月29～31日）の「写真コンクール」で北海道の出口憲次さん（小樽一般・道労連事務局長）が最優秀賞を受賞しました。残雪期の羊蹄山を写した作品で、雑誌版「建交労」2026年10月号の表紙を飾っています。